



参加無料  
定員50名

# 「共感して学ぶ」 震災映像をみんなで見る 10代のためのワークショップ

## 阪神淡路大震災を経験したひとは何を思っていたか

各地で災害が続発しています。  
でも直接被災しなければ  
どことなく「他人事」に感じてしまうもの。  
30年前に起こった阪神淡路大震災は、  
多くの映像が残った初めての都市型災害です。  
映像にうつる風景、人々の表情、言葉から感じることは  
いざという時の「備え」になるだけでなく、  
30年という時を超えて人に共感することが  
若者がこれから未来の社会を切り拓く力になるはず。  
みんなで映像を見て、「共感」を体験してみませんか？



神戸大学V.School Empa-seeプロジェクトとは

現在の社会は「人間中心」の社会。個人の想いや関心を起点として、新しいビジネスが作られたり、新しい技術が生まれたりしています。よりよい未来社会を構築するためには、人や社会の想いに「共感」することが重要です。  
神戸大学V.Schoolでは、若者の「共感する力」を養うためにどうすればいいかを考えるために、阪神淡路大震災の映像に着目。朝日放送グループホールディングスが公開しているアーカイブを活用したワークショップを開発しました。映像を見ること (See) と共感すること (Empathy) を組み合わせ、Empa-seeプロジェクトと名付けました。

**2025.2.1 (土)**

場所：ABCホール（大阪市福島区）

10:30~13:00 共感力醸成ワークショップ  
(10代限定・定員50名)

14:30~16:30 シンポジウム（詳細裏面）

昼食休憩時に WS参加者対象の朝日放送社屋見学会を実施します

主催：神戸大学バリュースクール

映像協力：朝日放送テレビ



お問い合わせ

[value-pr@office.kobe-u.ac.jp](mailto:value-pr@office.kobe-u.ac.jp)

お申し込み

<https://forms.gle/PuBGsNMvsyfp5KeGA>

右の2次元コードからもアクセスできます。



本イベントは、文部科学省/JST EDGE PRIME Initiative事業の支援を受けて開催します。  
また、JSPS科研費24K06281の研究の一環として実施するものです。